

# 『日本外交文書』 八〇年に寄せて

外務事務次官 杉山晋輔

昭和十一年に創刊された『日本外交文書』第一巻の序文は、「歴史ハ先人ノ実践ニ基ク貴重ナル教訓ナリ」という書き出しで始まります。この言葉の含意に鑑みれば、我が国が世界の平和と繁栄に向け、複雑化する国際情勢の中で重要な役割を担っている今日、日本外交を推進する重責を果たしていくためには、外交史料を渉獵して、外交の先例や先人の叡智を学び、現在の外交政策に生かしていくことが求められます。その意味で外交史料は教訓の宝庫です。また一方で外交史料は日本外交の歩みを伝える国民の財産でもあり、外交史料を編纂してその経緯を公表することは、我が国の外交を確認する手がかりとして極めて有意義なものと考えます。

外務省では、明治維新以降の我が国外交の経緯を明らかにし、あわせて外交交渉の先例ともなりうる基本的史料を提供する目的で、外交史料集『日本外交文書』を編纂公刊してきました。昭和十一年の第一巻の刊行以来、第二次世界大戦中の中断を経ながらも、正確な外交史実を提供するという強い熱意のもと、現在まで脈々と引き継がれてきた編纂事業は、このたび、八〇年の節目を迎えました。

外務省外交史料館で続けられている本事業は、現在、通算刊行冊数が二一八冊に上り、編纂の対象時期は明治・大正・昭和戦前期を終え、本年からは本格的に戦後期の作業を進めています。収録された外交史料は、日本外交の足跡を詳細に伝えるばかりではなく、重大な岐路に直面して苦悩する外交官たちの姿も映し出しています。『日本外交文書』が今後も国民の外交理解を豊かなものとし、学界における外交史研究の水準の向上にも一層寄与できるよう、各位の御支援・御鞭撻を切に願う次第です。

平成二十九年三月